

療養生活を送つて居られる。

先生は由来、名文を物し、画筆をとり、時に山に遊ぶ等趣味豊かな方であつて、旅日記、応用力学者の傳記等を綴られて、諸方の雑誌等に投ぜられていた。

今回それらをまとめて一回の書物とされた。一讀するに古く雑誌で拝見したものも新しい生命を与へられ活々と我々に迫つて来るのを感じた。殊に学者技術者の伝記は、テルフォード、ランキン、モール、シュヴェドラー、フィレンデル等の生涯又は生涯のある期間を通じて第一流の人物が技術のため力闘した模様によつて、我等に力を与へると共に、学問とは何か、技術とは何かと言う事を教へて呉れる。応用力学的随想に於ては応用力学の歴史が語られているが、著しく発達し分科した今日の応用力学に直面し迷う時、靜かに古い歴史を顧みる楽しみを与える。

其他の隨筆 山の記事等は先生の趣味の良さを味はしめると共に、あるものでは、先生壮年時代の劇しさを示すものである。

先生の筆になる數葉の繪画は素人ばなれした先生の一面を語つている。

先生青壯年時代の事柄はあまりにも現在と隔つていて羨しき限りであるが、先生のアルプスに寄せる純情旅情其のものは、現在の如き悪い環境に於ける人々に対してもある時は懷古的な情緒をかきたて、ある時は泌々した共感を以つて迎えられるであらう。

この書は先生と同年の方々にとつて、恐らくは青壯年時代を回想せしめるものであると共に、現在の若い世代の人々に對しては泌々した学問の世界と趣味の国を展示せしめるものであらう。(最上武雄)

## 記 事

◎第6回理事会(昭.25.10.7)出席者:三浦会長,大西,稻浦兩副会長,佐藤,西松,北村,奥田,米元,市浦,丸安,仁杉の各理事

協議事項: (1)コンクリート常置委員会で標準示方書解説脱稿印刷中,11月刊行の予定であるが定価を350円,会員250円,予約者限り200円とし改訂示方書の印刷と同時に旧示方書の主な改訂箇所を会誌に発表すること。(2)学会誌35.10に日本学術会議候補者の写真及び略歴を掲載し,有権者には推薦状を発送すること。(3)昭和24年度文部省科学研究費等による報告書審査は田中豊博士を委員長に推し,同氏に一任のこと。(4)明年4月日本工学会連合講演会の案があつたがこれを取り止め,明秋工学会を開催することとなり,改めて日本工学会で協議することとなつた。(5)秋の視察旅行を11月12日開催することとした(10月号でお知らせした通り)。(6)A.S.C.E.の明年度会長Mr. Gail A. Hawthawayが印度大ダム会議の帰途,明年2月初め頃日本に立寄るとの情報があつたが具体的日程が決定してから歓迎の準備を進めることとする。(7)国民経済研究協会からの協力方要請については学会からSpokesmanを紹介することとする。(8)会員入退会を原案通り承認。

### ◎講演会

(1)土,粉体,粒体に関する連合講演会(10.27~28両日,国立科学博物館において)講演数:日本化学会5,化学機械協会2,鉱山学会2,土木学会8,日本建築学会3,応用物理学会3,日本応用力学4,

農業土木学会2,農業機械学会2,計31題,土木関係講演題目及び講演者は次の通りであつた。

土の掘削に関する研究	長谷川源太郎
地表面積荷重の擁壁に及ぼす影響	市原松平
無変位土圧計の試作	近藤正夫
土の塑性理論に対するKoenen氏の討議と著者の見解	星 楚 和
沖積粘土層の物理的性質	立石 哲 郎
空気粉碎機によるセメント粉碎	{ 西原利夫 *郡利矩
土の突固めにおける粗材の影響	卷内 一 夫
液体を混入せる圧縮粉体内の応用分布	{ 西原利夫 *郡利矩

(2)第3回工業技術研究発表会(工業技術庁,日本工学会共催)日時及び場所:10日22~28日,東大第一工学部,講演数:金属15,機械20,電気23,繊維9,工藝6,窯業14,化学28,地質鉱山14,醸酵7,燃料6,造船3,建築1,土木4,計150,土木部門は28日午後で国分理事司会で無事終了した。土木部門の講演題目及び講演者は次の通りであつた。

1. 重層状盛土の效果的締め固め法 河上 房 義
2. 電気養生による鉄筋コンクリート構造物の寒中工事 板 倉 忠 三
3. 平岡発電所の工事概要特にダム施工について 鶴 飼 孝 三
4. 埠頭経営と土木計画東京港豊州石炭埠頭について 江 端 正 義

### ◎各種委員会

(1)編集委員会(昭.25.10.19)出席者:奥田委員長,米元副委員長本間,福田兩編集顧問外各委員及び関西支部から小西委員の代りに丹羽氏出席。協議事

項：(1) 第35巻第12号登載論文を決定、(2) 日本工学会から海外向年報資料提出方照会に対し、理事にお願いする。(3) 寄稿報文に対して今後謝礼として別刷50部贈呈のこと。

(2) 用語委員会(昭.25.10.6及び20)出席者：福田委員長外各委員、協議事項：測量関係用語の審議。

(3) 灌漑運河第1回国内委員会(昭.25.10.26 資源調査会主催)出席者：安藝資源調査会事務局長、外務省、農林省、運輸省港湾局、建設省、農業土木学会、土木学会の各代表者、協議事項：(1) 国際会議は明年1月中旬、印度=ニューデリーで開催、(2) 国内会議の名称を日本灌漑及び水路委員会とし、当分資源調査会に置く。(3) 関係機関から若干名の委員を出し、(4) 論文は日本に於ける灌漑及び排水に関する概観と今日の問題の2編を農業土木学会から提出し、尙資源調査会からも提出する。土木学会は日時切迫のため提出しない。国際会議出席者は2,3名外務省で選定する。

#### ◎その他

(1) 日本学術会議会員選挙だより：(a) 第5部立候補者数(全国区) 応物3, 機械11, 電気13, 造船2, 土木7, 建築4, 鉱山4, 金属6, 応化13, 計63。(地方区) 北海道5(内土木1), 東北2, 関東7, 中部4(内土木1), 近畿5, 中四6(内土木1)九州4(内土木2), 計33。(b) 有権者数(確定) 応物409, 機械2705, 電気3515, 造船328, 土木2379, 建築1052, 鉱山546, 金属1621, 応化2866, 計15422。当学会推薦の諸氏を有権者諸君の貴重な1票を以て有効に行使され学術会議に送つて下さい。

(2) 日本舗道株式会社専務取締役名須川秀二氏は去る5月渡米されたがアメリカ及び欧州各国の道路工事を視察し10月26日無事帰朝されたと学会へ挨拶に来会された。

(3) 前副会長、国鉄技師長田中茂美氏からアメリカ情報があつた(別掲記事参照)。

### 支部だより

◎北海道支部： 見学旅行会を10月7, 8両日開催、参加者47名。10月7日朝大型バスに便乗、札幌発、千歳の大林組施工中の米軍飛行場工事見学、米式路盤構築法及びコンクリート施工法に感嘆し、昼食後苫小牧、室蘭を経て洞爺湖畔1泊。翌8日北海道配電洞爺並びに日登久保内の両発電工事を見学、苫小牧一支笏湖間道路の機械化施工を見て、支笏湖に遊び夕方6時半帰札解散、晴天に恵まれ工事見学と共に各景勝地の秋色を愛で効果100%であつた。

◎中部支部： 10月18日「国鉄敦賀線深坂隧道見学会」を実施した。本隧道は延長5k 170m, 本邦第4位、

世界第29位の長大隧道である。型式は単線一号型、将来電化の為高サ5m 684を有している。工事着手は昭和13年11月16日導坑貫通同18年3月。当初工期40ヶ月の予定が難工事及び戦争の影響の為、現在1km余の諸工事を残し、昭和26年完成の見込である。

支部評議員名鉄電車足立貞嘉氏以下80名、午前9時名古屋駅発、富山行列車に乘車、車中に参考資料「深坂隧道工事概要」及び岐阜工事々務所諸氏心尽しの昼食を受領。12時22分北陸線木ノ本駅着、トラック4台に分乗して杓掛口に向う、13時10分杓掛口着、約20分間区長遠藤氏の「工事概要」の説明を聞き30分、8ヶ班に編成し人員車16輛にて入坑する。

14時、杓掛口より約2k 500の現場に到着。頂設、中背、穹拱コンクリート、ミキシングプラントの4ヶ所にて各班毎に係員の説明を聞き、14時50分、約3k 200mの地点より再び人員車にて疋田口に向う。

疋田口にて鍛工所、充電所等の附帯設備を見学後、区長より工事運営の苦心、成果等を聞き、全員非常な感銘を得、再びトラックにて疋田駅に到着、15時54分、和気あいあいの内に散会した。

本見学会が参加者の多数、見学時間の僅少にも拘らず無事、極めて有効に実施し得たのは、作業予定の変更までせられ、終止熱意を以て案内せられた遠藤区長始め現場諸氏の御厚意と国鉄当局の多大な御援助並びに立案当初より準備に奔走せられた浅野利治氏の御尽力の賜であることを附して厚く感謝の意を表する次第である。

◎関西支部： 第3回関西工学連合講演会を10月14, 15両日、大阪大学工学部枚方学舎で開催、聴講者第一部約50, 第二部約40名、講演数42で土木関係の講演者及び題目は本誌第35巻第9号に登載した通りである。

◎中国四國支部： 講演会を10月21, 22両日徳島大学に於て開催、講演数は次の通りで参加者多数で殊の外盛況であつた。

吉野川下流に於ける河相について	久宝保
軌条応力計算に関する一考察	最上幸夫
徳島縣産骨材について	荒木謙一
管路に於ける砂輸送の抵抗について	小川元
曲梁の垂直応力度及び仕事方程式に対する新公式	大野諫
電気養生のコンクリートの性質に及ぼす影響	大浜文彦
呉市に於ける山崩調査報告	坂田静雄
山城谷隧道工事について	田村邦二
神ノ瀬ダム製砂について	前沢肥
太田川放水路計画について	兼重信雄

ポンプ式深浚船による築堤工事について  
 那賀川総合開発について  
 重土工機械について  
 三辺固定一辺自由矩形版の計算とその応用

山田 正平  
 高野 太郎  
 村山 朔郎  
 水野 高明

日本経済再建に占める電力開発の重要性  
 最近の米国における土木工事について並びに映画  
 ◎西部支節: 種谷氏講演会を10月12日九州大学工学部で開催、聴講者約400名で非常に盛況であった。

### 入退会報告 (10月中)

1. 入会 134名 (特別員 2, 正員 47, 准員 61, 学生員 24)  
 2. 復活 43名 (正員 39, 准員 4)  
 3. 退会 18名 (正員 1, 准員 16, 学生員 1) 4. 死亡 1名 (正員 1)

### 会員現在数 (昭.25.10.31)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	計
12	15	146	3051	5717	813	9754

### ◎本年度(4月~10月)入会特別員名簿

團 体 名	住 所 (電 話)
(1級) 川崎重工業株式会社 艦船工場	神戸市生田区東川崎2の14 電湊川(5)7530-9. 代表湊川(5)7531
(〃) 富山地方鉄道株式会社	富山市牛島53
(〃) 八幡製鉄株式会社	東京都千代田区丸ノ内2の2(丸ビル2階) 電(23) 1341-9
(2級) 岩手大学附属図書館	岩手縣盛岡市上田
(〃) 株式会社東京鉄骨橋梁製作所	東京都港区西芝浦4の4 電(45)1145-7. 3958
(〃) 南海電気鉄道株式会社	大阪市南区難波新地六番丁
(〃) 中日本重工業株式会社	神戸市兵庫区和田宮通7の1
(3級) 大同コンクリート工業株式会社 沼津工場	静岡縣沼津市上香貫西島町1071
(〃) 宮崎縣土木部	宮崎縣宮崎市別府町10 宮崎縣庁内
(〃) 江ノ島鎌倉観光株式会社	神奈川縣藤沢市片瀬2898
(〃) 富山縣立富山西部高等学校土木科	富山市五福2238
(〃) 福井鉄道株式会社	福井縣武生市北府本町3号8の1
(〃) ブルドーザー工事株式会社	大阪市北区絹笠町50 堂ビル6階 東京支店: 東京都中央区日本橋小伝馬町2の7 電(66)2554
(〃) 愛知縣建設業協会	名古屋市中区南大津通り4の1
(〃) 株式会社日立製作所東京第一営業所建設課	東京都品川区大井坂下町2717電課直通(06)1966会社 (06)111
(〃) 門司鉄道管理局小倉鉄道教習所	福岡縣小倉市篠崎町
(〃) 愛知縣立岡崎工業高等学校土木科	愛知縣岡崎市羽根町 電 岡崎 1808
(〃) 京福電気鉄道株式会社	京都市下京区油小路通御前通下ル玉本町197 電 代表下 (5) 8531
(〃) 藤田興業株式会社片上鉄道海運事務所	岡山縣和氣郡片上町
(〃) 大分縣立中津第二高等学校	大分縣中津市大塚町 電 中津 300
(〃) 日本セメント株式会社西多摩工場	東京都西多摩郡大久野村 2650 電 五日市 76, 145

正員 坂本丹治君 は昭和25年10月3日逝去せられた。本会は謹んで哀悼の意を表する。

## DOBOKU-GAKKAISHI

VOL. XXXV. NO. 11, Nov. 1950

(JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS)

## CONTENTS

Papers	Page
Dr. Coenen's Discussion "A Fundamental Theory of Plastic Deformation and Breakage of Soil" and Author's Discussion (Abstract)	1
On the Calculating Method of Flood Regulation and its Applications	6
Quantitative Measurement of the Cracking Tendency in Welded Joint	11
On the Theory of Rail Twists	15
On the Solution of Rigid Framed Structures and their Elastic Behavior in the Neighborhood of the Critical State	19
Contribution	22
Reference Data	25
Abstracts	33
Lecture	37
Voice	41

## OFFICE

No.4 2-CHOME, OTE-MACHI CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN.

## 編集後記

銀杏の葉もすでに黄ばみ、風に吹き飛ばされた落葉がそこはかたなく散り敷くようになりました。冬の気配が気がつかない間に忍びよってきましたが、既に初雪を見られた会員諸士もある事と思います。今年もあと1ヶ月、現場に、事務所に、研究室に、年末の忙しさを託しながら皆様仕事に励んでをられることでしょう。朝鮮動乱を期として、西と東の冷たい対立が除々に熱い戦争に移りつつあるようです。来年は国連友好諸国の努力によつて、対日講和条約が結ばれるという気運も強いと云われています。一日も早く我々日本人の一人一人の努力によつて、友好各国の信用を高め、一人前に世界の仲間入りをしようではありませんか。平和の為に異国の丘を鮮血に染めている国連軍将兵の奮闘に対し、心から感謝を捧げる次第です。

× × ×

本号の担当は村、脇沢、奥村、三宅、国分の各委員でした。

昭和 25 年 11 月 25 日 印刷 土木学会誌 定価 80 円

昭和 25 年 11 月 30 日 発行 第 35 卷 第 11 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中川 一 美  
 印刷者 東京都港区溜池町 5 番地 大沼 正 吉  
 印刷所 東京都港区溜池町 5 番地 株式会社 技報 堂

東京都中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話丸の内(23)3945番  
 発行所 駐人土木学会 振替東京16828番